



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.46

毎月1日号に掲載

る。採用には賛否両論あったが、当院に入院して後遺症が残り、当院に就職を希望する、断るわけにはいかない」と、私が強引に押し込んだ。

障害者雇用について
私がお病院勤務をしていた頃、ある女子高校生が脳髄膜炎で入院し、数ヶ月も意識不明の状態となった。彼女は才能豊かで水泳選手として県代表になり、ピアノの腕もなかなかのものだった。懸命の治療により一命は取り留めたものの、高次機能障害が残ってしまった。

高次機能障害とは、交通事故ややくも膜下出血等で脳に損傷を受けた後に残る記憶障害や注意障害等を指す。ゆえに退院しても「集中できない」「注意力散漫」「人間関係が保てない」等の問題が発生し、就職できない方も多い。

彼女の後遺症は軽度であったので、進学して介護福祉士になった。その理由には病院への入院体験があったに違いない。そして自分が入院した病院に就職を希望してきたのだ。ところが医者面接すれば高次機能障害がある事は一発でわか

案の定、問題はいろいろ発生したが他の職員の方でローで彼女は生き生きと仕事をしていた。彼女が職場に加わる事により、職員間の絆が強まるという効果があったようだ。また、プロのミュージシャンが院内コンサートに来た際に、彼女にピアノで伴奏するように仕組んでみた。プロはそことは知らず、リハーサルで厳しく指導し、彼女も一生懸命練習してコンサートは大成功に終わった。終わってプロに内情を打ち明けると「先に聞いていたらコンサートは失敗していた」と言い、彼女は彼女で大きな自信を得ていた。

福山市における障害者雇用といえば、(株)エフピコの「愛パック」や(株)エブリイの「すまいるエブリイ」が有名だ。「大手だから」「勢いのある会社だから」と思う方もいるだろうが、(株)ワンライトのような中小企業も多い。障害者の方を積極的に受け入れた事が会社の発展に繋がったのではないか。多様な社員がいる方が組織の総合力が高まるのではないか。